

場 1	「農」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
	■クリーン農業の推進による環境保全と生産システムに係る信頼の確立 - 適正な施肥と防除により、化学肥料、農薬の使用抑制を進める - 各種認証制度の活用により、クリーン農産物の差別化とブランド化を促進 - クリーン農産物を媒介した地域活性化 - クリーン農産物を支える生産、流通、消費システムの構築
	■安全・安心のニーズに応える農産物供給システムの構築と地産地消の推進 - 農産物の安全・安心をデータとして、生産履歴を表示 - 地場農産物のカタログ化 - 農産物の生産現場を体験する消費者交流や教育現場への体験学習の導入 - 家庭や学校等における安全・安心農産物による食育の推進 - 都市・農村の交流促進と歩いて楽しむ農地の散策路づくり

場 2	「山・森」環境の保全と環境資源の持続的な活用物語
	■山がはぐくむ「水・土・森」の保全と育成 - 山の水脈を包む流域の森林生態系を保全 - 計画的な造林・保育・間伐などの施策 「石狩川ルネサンスの森」の育樹（植樹・管理）を協働で進める
	■居住空間における緑の保全と量の拡大 - 街路樹など街なかの緑を協働で保全 - 個々の緑のボリュームアップと質の向上
	■森林と人との共生、交流を進め、森林の多様な機能についての理解を深める - 森林の生物調査や自然生態系調査を市民参加で実施 - 森林浴や自然体験活動の実施と、自然ガイドの育成強化 - そらぶちキッズキャンプの整備と、森林生態系体験のフィールドづくり - 歩いて楽しめる森の散策路づくり

場 3	水の流域環境と物質循環を持続的に支える河川環境の物語
	■河川の自然生態系を再生する物語のシナリオを描く - 水質浄化や河川流域清掃作戦のプログラムづくりと市民の参加 - 水質や水量、生物生態、植生など多様な調査データを整備 - 河川流域で生活する人や土地利用の状況を調べて流域マップに集約 - 河川環境の保全と活用についてのシナリオづくりを市民・行政の協働で推進
	■水辺のふれあい活動を広め、活動の拠点づくりを進める - 流域の水辺再発見プロジェクトを実施 - 水辺の環境観察・調査活動への参加と水辺のガイド役を養成 - 水辺の体験学習プログラムの開発と参加の拡大 - 水辺の植樹や動植物の生息空間整備など自然環境再生活動の展開と市民参加 - 水辺の活動拠点「サポートセンター」の設置と拠点化

行政としての役割	これまでの取組及び 今後の実施予定の取組 <i>[斜め字]</i>	説明コメント	評価及び評価コメント
・ 認証制度の広報展開や情報提供 ↓ 地場産品の認証状況について情報提供 ↓ 農産物についての基礎的知識の普及 ↓ クリーン農業への支援拡大	- 減農薬米への支援推進 - 地産地消イベントの開催 (H21) - 滝川地産地消ふるさとづくり協議会の設立 →地産地消認定店制度の創設 (H22)		
・ 学校や社会教育における食育の啓発 ↓ 地場食材の情報提供 ↓ 消費者と生産者の交流機会の創出・運営 ↓ 教育カリキュラムへの農業体験の導入拡大 ↓ 学校給食を通じての地場産農作物への理解向上	- 親子農業体験塾 (H18以前) - 地産地消交流給食 (H18以前) - 減農薬米の販売 (H18以前) - 滝川産ナタネ油の生産及びブランド力の向上への支援 (H19) - 地場農産物販売拡大事業 (H20) - 食育基本計画の見直し (H24～H28)		

・ 森林の生態系に関する情報の提供 ↓ 森林保育の協働の場づくり	- 石狩川ルネサンスの森植樹祭 (H13～) - 石狩川再生の森整備 (H15～) - 北海道植樹祭の開催 (H18)		
・ 協働の仕組みを整える ↓ 住民理解を深める ●協働の仕組みを構築する	農地・水・環境保全向上対策事業 (H19～H23) 農地・水保全管理支払交付金事業 (H24～H28)		
・ 森林の多様な機能に関する情報提供 ↓ 市民調査活動への支援 ↓ 公共林への調査活動の支援 ↓ 森の散策路の整備 ↓ 森のかがく活動センターの場の提供	- 滝川遊学会事業における自然体験 - そらぶちキッズキャンプ実現化支援 (～H24)		

・ 河川管理者と連携して河川情報を提供 ↓ 河川環境の市民調査に対して支援	まち・川づくりサポートセンター (旧まちづくり・川づくり協議会) の活動推進支援		
・ 活動の場の整備と提供 ↓ 活動空間に関する情報の整備と提供 ↓ 自然ガイドの派遣 ↓ 活動拠点の場の提供	まち・川づくりサポートセンター (まちづくり・川づくり協議会) の活動推進支援		

【実施状況欄】

A: 十分な取組が行われている B: 取組が行われているものの、今後の推進が望まれる C: 取組が行われているが、今後、方向性を変えるなど事業の再検討が必要 D: 取組が進んでおらず、検討が必要